

論文 / 著書情報
Article / Book Information

論題(和文)	日本語学習ディクテーション・データベースの開発
Title(English)	Development of database of dictation practice for Japanese learners
著者(和文)	山元啓史, ホドシチェク ボル
Authors(English)	Hilofumi Yamamoto, Bor Hodoscek
出典(和文)	第25回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」発表論文集 2019, Vol. 25, , pp. 17-24
Citation(English)	Proceedings of the 25th Symposium on Humanities and Database, Vol. 25, , pp. 17-24
発行日/Pub. date	2020, 2

日本語学習ディクテーション・データベースの開発 Development of database of dictation practice for Japanese learners

山元 啓史
Hilofumi Yamamoto

ホドシチェク ボル
Hodošček Bor

東京工業大学 環境社会理工学院 東京都目黒区大岡山 2-12-1
Tokyo Institute of Technology, 2-12-1, Ookayama Meguro Tokyo Japan 152-8850
大阪大学大学院 言語文化研究科 大阪府豊中市待兼山町 1-8
Osaka University, 1-8, Machikaneyamacho Toyonaka Osaka Japan 560-0043

概要: 東京工業大学で日本語を学ぶ留学生のためにディクテーション・データベースを開発している。このデータベースは、まったく日本語の前提知識がない学習者を対象に、日本語の発音・語順・活用・表現をディクテーションを通して、学ぶことを目的としている。短い文の聞き取りからはじめ、次第に長い文・複雑な文を学ぶ。学習者は文を聞いて（あるいは動画を見て）、セリフの一部の空欄部をキーボードからローマ字でタイプする。開発データは日常日本語口語表現 1500 文である。週 5 日 1 日 10 文 150 日（3 単位）分を開発した。すべての文には英語訳をつけ、文の意味はわかるようにした。文はできるだけ滑らかに話せる、自然な口語表現に限定した。また、日常生活に用いられる俗語・固有名詞等を意図的に多く取り入れた。開発したデータベースを利用して、オンライン・ディクテーション練習システムを作成し、日本語初級学習者に試用してもらった。本研究発表では、データベースの開発とディクテーション練習システムの試用アンケートから得られた結果について報告する。

Abstract: We have been developing a dictation database for international students learning Japanese at the Tokyo Institute of Technology. This database is for students who do not have any preexisting knowledge of the Japanese language. It provides learners basic knowledge through dictation practices, such as pronunciation, word order, verb conjugations, and daily expressions. Learners listen to relatively short sentences first, after which the length is gradually extended and complexity increased. On the practice site, learners fill in the blank part of the dialogue by typing on the keyboard while listening to the sentence or watching a video. We have developed 1500 Japanese colloquial sentences, which span 150 days (3 credits) of content corresponding to a 5 days a week, 10 sentences per day class. All the sentences are accompanied with English translations, so that learners can understand the meaning of each sentence and the situation. The sentences are limited to colloquial expressions which allow learners to speak smoothly and naturally, and the database deliberately includes slang words and proper names frequently used in daily life. In this study, we will address the development of the database, and will also mention the impressions of students who used the database through the online practice system.

キーワード: 日本語学習、会話、口頭表現、リスニング、俗語、語順

Keywords: Japanese language learning, colloquial expressions, listening, slang, word order

1 はじめに

本稿では初級学習者を対象に口頭表現 (Colloquial Japanese) の習得を目的としたディクテーション用データベースの開発について報告する。

「こういうことだったんですか」とは来日しばらくの後に筆者がクラスを担当した学生から発せられたことばであった。日本語の教科書通りに忠実に日本語を学んだが、来日して日本で触れた日本語は語順が違う、単語が違う、略語も俗語も多いことに気づいた。学生は「本当 (現実通りの日本語) を教えてもらっていたら、もっと早くうまくなって、ここまで苦勞することはなかった」という。この発言から、教科書や教室で教える内容は「事実即していない」ということがわかる。この問題解決の一助として、ディクテーションの訓練を取り上げる。

1.1 ディクテーションの訓練領域

ディクテーションは聴解と受け取られるかも知れないが、聴解能力というよりも、同じ文を何回も聞いて何であるかを感じ取る能力である。日常の聴解行動は一回限りであるため、ディクテーションのように何回も聞き取る行動とは別ものである。ディクテーションは手続き的知識、処理の自動化 (杉浦他 2002: 106) に貢献するものと考えられている*1。ただし、教育の現場では知識の手続化に必要な練習が絶対的に少ないことが指摘されている (杉浦他 2002: 106)*2。

ディクテーションで使われる文は、自然なものが望ましい。自然な言語インプットから言語要素の学習理論があり (Krashen and Terrell 1983)、自然な言語インプットに習得効果があることがわかっている (Blau 1990: 746)。すなわち、一息で言えない文や書きことば、スピーチの台本、ニュース番組・ナ

レーションなどの話の専門家が読み上げるもの、教科書に記載された材料などもふさわしくない。残念ながら、中級向け、上級向けの英語ディクテーションサイトは多いが、初級向けのは多くない。現実の言語音声を書き取るのは初級の学習者には難しいと考えられているようで、初級教科書の例文や CD には語彙の調整・加工などが見られる。初級は基本的な語彙、文型・文法を学び、中級以上から実際の材料を使った教育を行い、段階的に指導する意図であろうが、事実即した自然な材料が提供されているかどうかはわからない。

1.2 ディクテーションの利点と要件

ディクテーションは、機能的な語学力の比較的シンプルで信頼性が高いテストとして注目されている (Savignon 1982)。単なる綴り字テストとは異なり、ノートテイキングのように学習者が日常生活で行うタスクと似たものと考えられている (Cohen 1980)。また、他の語学力テストとの間に 0.96 で相関があることがわかっており (Oller and Streiff 1975)、言語能力の正確かつ効率的な尺度であることが示されている (Cai 2013, Oller and Streiff 1975)。一方で、文が易しい場合は全文を聞かずとも答えられるため単語認知の能力しか測れない (Buck 2001) といった負の評価もあり、初級学習者を意図して、文をやさしく改変する必要もないことが想像できる。ディクテーションの利点は多肢選択式の内容理解問題などに比べて作成が容易である。文構造についても過剰に考慮する必要もないと言われる (Blau 1990: 752)。

ディクテーションは認知処理の統合であり (Oller 1971)、単語の認知でさえも文脈から切り離して処理することができないという (Frauenfelder and Tyler 1987)。話しことばは短い間に多くの異なる音がすばやく連続的に発せられるもので、即時的で効率的で柔軟な談話 (Nishimura 2010: 72) である。それゆえ話しことばを模したのではなく、自然そのものの特性が不可欠であることが予想される。その自然さがあれば、文脈中から文法を潜在的に学ぶ効果も示唆されている (Oller and Streiff 1975)。

*1 リスニングにおける問題は、音韻知識が不足していること、音韻知識と語彙・表現などの言語情報との結び付きを自動的に処理できるか、聞いて即理解する能力が運用できるかどうかであり、これを可能にする処理を養成する必要があると言われている (杉浦他 2002: 106)。

*2 手続化: 知識を行為に変換 (手続化) し、複数の手続を組み合わせて一連の行為連鎖を自動的に行えるように何度も練習する必要があるといわれている (Gagné et al. 1993)。

2 方法

2.1 センテンスの特徴と作り方

データベースに収録したセンテンスの特徴はすべて口語文であることである。語順は、因習的に考えられている主語・目的語・述語のような紋切り型の語順に因われず、むしろ倒置や頭に思いついた順の語順を積極的に取り上げる。話者間で互い既知の情報は発話されず、語の省略が行われるが、この特徴もデータベースに収録し、省略に相当する意味は英訳あるいは映像で補完する。言いよどみ、言い直し、フラグメント（途中で切れの文や句）なども収録する。単語は、固有名詞を積極的に使用する。特に地名、個人名、商品名などを取り入れる。長い文を避け、3文節ないし5文節で表すものに限定するか、対話の形式にして、できるだけ短い文で収録する。毎日続けることを主眼とし、同じことを同じように繰り返すより、似てはいるが日々内容的に違うことが継続できるよう配慮する。

2.2 データの形式・内容構成・例

回答項目1つを1レコードとする。1レコードは、1)レコードID、2)発話文、3)回答箇所を空欄としたカッコ付の発話文、4)正答文字列、5)対訳英文文字列、の5つのフィールドからなる。発話文は自然な口語である。単純化した発話を提示する(Leow 2003)。短い発話で文だけでは理解しにくいいため、英語訳がついている。各レコードには発話文に相当する状況を示す映像をつける予定である。俗語(マジっすか)、固有名詞(スタバ、ファミマ)、縮約形(てしまう→ちゃう)、言い換えのための接続詞(つまり、つーか、で…)、言いよどみ(ああ、まあ、そのう)等はできるだけ書きことばで一般的に記される形を使用する。データベースで扱われる内容は表1に示されるトピックである。ディクテーション練習の例を表2に示す。

3 試用結果

ディクテーションデータベースの試用は、東京工業大学日本語・日本文化科目「Strategic Japanese

(以下、TOJ51: Topic Oriented Japanese 51)」の宿題として、7週実施した。TOJ51は12名(一時的に15名)受講者で、2019年4月9日から6月6日の7週間行われた。受講者は全員そのクォータ前のクォータに来日した日本語学習経験がほとんどないか、初級前半のレベルで、学習者によっては日本語の音や文字も知らない。クラスの目的は、日本語学習ではなく、日本文化学習の一環として、日本語の学び方について互いにディスカッションを行いながら、知識を深める文化学習クラスである。授業は、すべて英語で行われ、一部、日本語を使ったペア練習が盛り込まれてはいるが、それは主目的ではない。授業スケジュールと授業概要は表3のとおりである。

3.1 実施手順

毎回の実施は、ログインからはじまり、ディクテーション文を聞く、聞こえた文をタイプする、答え合わせ(自動)を単純に繰り返す。1週間に70文、8週間計500文のディクテーションを行い、1500文のうちの1単位分のみを実施した。練習後の質問として、「むずかしかったディクテーションはどれだったか」、「うまくできたディクテーションはどれだったか」を尋ねたが、これは必須とはしなかった。

3.2 アンケート結果

各練習実施後6回にわたって、ディクテーションについてのアンケートを行った。アンケートは1)「継続しているかどうか」、2)「難しいかどうか」を毎回聞いた。それ以外に、コース前半時期には3)「ディクテーションが好きか」、ディクテーション実施後、5)「ディクテーションについてどう思っているか」について聞いた。コース中盤から後半時期には4)「ディクテーションによって日本語に関する知識は増えたか」、6)「その他コメント」を尋ねた。1-4)の項目については表4に示す。

「毎日続けたか」という質問には、ごく一部のやり忘れの学生を除けば、ほぼ全員が毎日実施している(実施ロードの問題)。「難しいか」という質問には、多くが難しいと答えている。「好きか」という質問には、おおむね「好き」である。「知識は増え

表 1: 日本語ディクテーションデータベース収録内容

Volume 1	Volume 2	Volume 3
Week 1 あいさつことば 1) あいさつ 2) 招待する・される 3) 食べ物 4) 健康と病気 5) ほめる 6) イ形容詞 7) ナ形容詞	Week 1 コミュニケーションのための文 1 1) 会話で役に立つ表現 2) 曖昧な表現だが、必要な表現 3) 好みと味 4) 勝ち負け 5) やりすぎ/軽く見る/過小評価する 6) 敬語と感謝 7) 健康と病気	Week 1 さあ、はじめましょう 1) 報告書 2) 仕事を終えて 3) 散歩に出かけて 4) 旅行 5) 文化の日 6) わかる・わからない 7) 心機一転
Week 2 好み 8) 好きと嫌い 9) よいとわるい 10) 好みを尋ねる 11) 形容詞 12) 願望 13) ほめる 14) 何かする	Week 2 ストラテジックな文 1 8) 手伝う・役に立つ 9) 何かに気づく 10) 易しさと難しさ 11) ちょっと前/たった今 12) 驚きと発見 13) いつでも言える 14) 一応・とりあえず	Week 2 日常のできごと 8) 味と風味 9) お菓子 10) 仕事を終わらせる 11) 困難なこと 12) 今週の予定 13) 事件 14) 駅のアナウンス
Week 3 食べ物 15) 成分 16) 味が良い・悪い 17) 調理法 1 18) 調理法 2 19) 食べ物とレストラン 1 20) 食べ物とレストラン 2 21) 食べ物とレストラン 3	Week 3 コミュニケーションのための文 2 15) アドバイス・進言・お勧め 16) 味覚と複文 17) やり直す・作り直す・訂正する 18) 材料 19) 特別に/格別に 20) 経験 21) 希望/期待	Week 3 健康になろう 15) 病気と保険 16) 筋肉痛と肩こり 17) 病気の症状 18) 食事と健康 19) 歯医者 20) 病気と病院 21) カロリーとダイエット
Week 4 遊びの文化 22) じゃんけん 23) ゲーム・スポーツ 24) 花見 25) ポップカルチャー 26) 福笑い 1 27) 福笑い 2	Week 4 ストラテジックな文 2 22) できるだけ、好きだけ 23) 比較する 24) 季節 25) 人気がある 26) 技能がある/上手にできる 27) ようだ/そうだ 28) 間違える	Week 4 半分終わりました 22) 天気のいい日に 23) 池のほとりを散歩 21) 訪問 25) レストランの予約 26) ヘアカット 27) 外出 28) エレベーターとエスカレーター
Week 5 インタラクションとストラテジ 28) 何かに挑戦する・しない 29) 後悔する 30) 鑑賞する 31) 示唆する 32) 経験する 33) 確認 34) ストラテジーの表現 1 35) ストラテジーの表現 2	Week 5 日本語らしい日本語 29) 体に関する慣用句 30) 通用する/実際に使える 31) 親族呼称 32) 同じ/似ている 33) 敬語表現 34) 動物を使った慣用句 35) 四字熟語	Week 5 毎日の過ごし方 29) 授業登録 30) 歯ブラシ・歯磨き 31) 締め切りが迫っている時 32) 気分が優れない時 33) 微妙なやり取り 34) パスポートの申請 35) 免許証の更新
Week 6 ストラテジーの表現 36) ストラテジーの表現 3 37) ストラテジーの表現 4 38) ストラテジーの表現 5 39) ストラテジーの表現 6 40) ストラテジーの表現 7 41) 補語 1 42) 補語 2	Week 6 動詞関連 36) 使役 37) 副詞と動詞 38) 複合動詞 39) 自動詞と他動詞 40) 受身形 41) 命令形 42) 意向形	Week 6 未来の出来事 36) 見たことない 37) 移動 38) イントクイズ 39) 買い物 40) 明日の予定 41) 誕生日 42) 小学校訪問
Week 7 自然な話し方 43) 対人関係表現 1 44) 対人関係表現 2 45) 対人関係表現 3 46) 対人関係表現 4 47) 対人関係表現 5 48) 対人関係表現 6 49) 対人関係表現 7	Week 7 複文 43) 同時に/てから 44) やりもらい 45) 条件節 46) 完了表現 47) 名詞修飾 48) 擬音語・擬態語 49) 可能形	Week 7 いよいよ最終週 43) 研究倫理 44) 人生に必要なこと 45) タワーゲーム 46) 洗濯物 47) 居酒屋 48) さあやるぞ 49) 学園祭
Week 8 まとめ 50) Summary	Week 8 まとめ 50) 挿入句	Week 8 まとめ 50) 最終試験

たか」という質問には、ほとんどが増えたと答えており、おおむね良好な結果が得られている。

4 考察

試行で得られたコメントを元に、目的のデータベースに近づいているかどうかを検討する。

まず「ディクテーションは難しいか(表5)」からは、多くが、むずかしいことは認めていることがわかる。初級学習者にとって自然な発話は速く、その速さに合わせて、正確にタイプして綴る、長音や濁音の音の認識、文の区切りの認識、新単語の認識な

どで苦勞しており、文の全体像の把握、複雑さの処理を問題として認識していることがわかる。また、過剰にできないときにはいやになることも事実だろう。一方で、徐々に簡単になってきたと感じる、自分で調べて解決する、上手になってきておもしろさを感じる、など難しいながらも克服していることもわかる。

つぎに「ディクテーションは好きか(表6)」からは、短い時間に集中的に練習できる、毎日の練習が習慣化している、毎日日本語に触れられる点をあげていることがわかる。一方で、なかなか正解にならないから好きになれない、という発言から、フィー

表 2: ディクテーション「何かやるか、やらないか」の例; 部分聞き取りの場合にはアンダーライン部のみを書き取る。

1. A: <u>トランプ</u> 、しよ?	Let's play cards!
B: いやだ!	I don't wanna play it.
2. A: どうして?	Why?
B: まけるの、 <u>きらい</u> 。	I hate losing.
3. A: <u>とにかく</u> やってみよ。	Let's do it anyway.
B: うーん。	Well, no...
4. A: <u>やってみたら</u> どう?	Why don't you try it?
B: そう?	You think so?
5. A: パチンコ、 <u>よく</u> しますね。	I often play pachinko.
B: そうですね。毎日ですね。	Yes, you play it everyday.
6. A: <u>マージャン</u> もときどきします。	I also do mah-jong from time to time.
B: 本当は毎日ですね。	In fact, you play it everyday.
7. A: でも、 <u>付き合い</u> 程度ですね。	But, I am a kind of social-player.
B: でも、毎日ですね。	But, you play it everyday.
8. A: <u>運動</u> もしていますか。	Are you doing exercises?
B: <u>ラジオ</u> 体操ぐらいですね。	Only radio exercises.
9. A: あまり運動、 <u>しない</u> んですか。	Not much exercises?
B: <u>運動</u> らしい運動はしませんね、 <u>ほとんど</u> 。	I seldomly do exercise kind a thing.
10. A: <u>マラソン</u> 、はじめませんか。	How about starting a marathon?!
B: 死んでしまいますよ。	I would die.

表 3: 同時並行に行われた授業の内容; 2019 年度東京工業大学第 1 クォータ

授業回	日付	テーマ
1	4/09	学習ストラテジー: 音の捉え方
2	4/16	リスニング 1: 日本の歌
3	4/18	リスニング 2: 日本の歌
4	5/07	ビデオを見る 1: コメディ
5	5/16	ビデオを見る 2: ドラマ
6	5/21	文化とは 1: 日本人の行動
7	5/23	文化とは 2: 食べ物

ドバック（できていない点の明示的な指摘）を行う必要もあるだろう。

ディクテーション活動自体の認識「ディクテーションをどう考えているか（表 7）」については、発音に慣れるのに役立つ、多くの文は短いことが体験的に理解できている、濁音・清音の区別、促音・長音の認識が難しいことについて気づいていることがわかる。これらは、教師が大切だと言っても意味が

ほとんどない点であり、自分で気づいていることは良いことである。聞き取りよりもむしろ文の集中すべき練習であることに気づいている点も体験しなければ身につかない要素であろう。ただし、ローマ字で入力し、ローマ字文字列の一致によって正誤判定を行っていることが正解に至らなく、イライラ感が募ったことが想像できる。確かにタイプをするのは面倒であるが、自分の誤りを目視で確認できるこ

表 4: ディクテーション練習実施後の学生の意見 (数字は日付と人数)

授業実施回	2		3		4		5		6		7	
	4/16		4/18		5/7		5/16		5/21		5/23	
	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No	Yes	No
1. 毎日続けているか	12	0	12	3	12	0	9	3	12	0	11	1
2. むずかしいか	8	4	6	8	11	1	9	3	9	3	7	5
3. 好きか	11	1	8	6	-	-	-	-	-	-	-	-
4. 知識は増えたか	-	-	-	-	12	0	11	1	12	0	12	0

とは利点である (飯野 2013: 79)。今後は、ローマ字入力で内部でカナ変換するか、カナ入力にするかして、内部のカナ文字列と照合し、正誤判定を行うようにするなどの改善が必要になろう。

「ディクテーションによって知識は増えたか (表 8)」については、単語力、文の構造など言語要素に対する知識や認識だけでなく、徐々にわかってきた、日本語の知識が広がった、簡単な単語が違った音だったことに気がついた、長い時間日本語に触れることができた、単語と発音になれてきた、などの手続き的 (連続的・総合的) な知識の習得がおこっていることがわかった。

「その他コメント (表 9)」にはその他雑多な意見が見られる。注目すべきは、ディクテーションは自習でやるべきことで先生から学ぶものではないもの、習慣づけができた、と学び方 (ストラテジ) に関する点である。また、楽しい、おもしろいといったように楽しみながらできる内容であったことがわかる。

本研究において開発したディクテーションによる活動においても「ディクテーションをしなさい」以外に特別なインストラクションを与えていないことから、聞こえた音を書き取るだけのシンプルな練習が行われ、毎日の習慣となっていたことがわかる。また、自然な話しことばで、聞いて書き取れるものであれば、多少難しいレベルであってもよいこともわかった。何度も聞いているうちに、自分ができない理由を考えて工夫をするようになる、この工夫をストラテジというが、繰り返し自分で練習する、何

度も聞き直していることもわかった*³。今後は、はじめは本来のスピードで聞くが、その後は、自分でスピードを一文毎に変えて、何度も繰り返して聞くことができる (Zhao 1997) 機能も追加すると良いだろう。また、自分の書いたところと正解とを見直して、自分のできないところを認識できるよう、フィードバック情報を提示したり、練習後、グループでディクテーションのコツを話し合う活動も計画できればよいと考える。

5 おわりに

本稿では、日本語学習ディクテーション・データベースの開発とそれを利用した学習システムを紹介し、実施アンケートの結果を報告した。その結果、タイプする単純な回答行動ではあるが、手続き的な知識の習得も行われていること、ローマ字入力に対応する点についても改善が求められることがわかった。

引用文献

- Blau, Eileen K. (1990) "The Effect of Syntax, Speed, and Pauses on Listening Comprehension", *TESOL Quarterly*, Vol. 24, pp. 746-753, 12.
- Buck, Gary (2001) *Assessing Listening*, Cambridge Language Assessment: Cambridge University Press.
- Cai, Hongwen (2013) "Partial dictation as a measure of EFL listening proficiency: Evidence from confirmatory factor analysis", *Language Testing*, Vol. 30, pp. 177-199, 04.

*³ ストラテジは個人で異なるので、教師が概念的に説明したり、行動で明示的に教えることはできない。

表 5: ディクテーション練習実施後の学生の意見「ディクテーションは難しいか」

1. 中国人だからなのかよくわからないけれども、むずかしい。	むのは難しいだろう。	11. 難しくないが、ローマ字綴りで困る。
2. 映画を見たり、歌を聞いたりして「か」と「が」、「た」と「だ」が区別できず聞き取れない。	6. 速く話すと難しいが、以前よりも簡単になってきた。	12. 文が長いときは難しいと思う。
3. 聞くことはあまりむずかしくないが、正確にタイプするのはむずかしい。	7. 上手になってきた。ある日の聞き取りはとてもおもしろかった。	13. 答えを書くのに文を区切りながら、何回も聞き直すことがある。
4. 長い文の場合、ちょっと難しい。	8. 難しくないが、注意深く聞いて正しく綴ることが求められる。	14. 長い文、複雑な文は難しいと思うが、本で新しい単語を調べたら、できた。
5. 語彙知識があまりないと全体をつか	9. 難しい。自分としてはふつう。	15. スピードが速いと複雑に感じる。
	10. 最近、一般的に簡単になってきた。	16. し/ち、す/つ、とう/と、が区別困難。
		17. 正しく綴れないときにはいやになる。

表 6: ディクテーション練習実施後の学生の意見「ディクテーションは好きか」

1. 促音を聞き取れず正しく書けず難しいが、たくさんのが学べた。	るが良い練習だ。	間がかからないところが良い。
2. 日本語上達のチャンスが得られたので、この練習は好きだ。	5. よいと思う。しかし、答えを見るまで正解に至らないと少しやる気が失せるところがある。たぶん選択肢になると少し楽しくなるかも。	7. 簡単に効率良い毎日の練習だ。
3. もちろん、集中的に練習でき、役立つ。		8. 毎日日本語に触られるので助かる。
4. 意味や構造がわかるまで時間は掛か	6. 簡単に聞き取り練習ができるし、時	9. どうして正解にならないのかわからないから、あまり好きではない。

表 7: ディクテーション練習実施後の学生の意見「ディクテーションをどう考えているか」

1. 日本語の発音に慣れるのに役立つ。	そして、自信を持って教室外でことばを使うのに良い方法である。	たり“tu” だったり、混乱する。カナで書くなら間違えないのに。
2. 答えをチェックするのに時間が掛かる。正しい答えを入れたのに、まだ間違っているの、どこが違うのか指摘してくれたら、助かる。	6. たとえば、「し」と「つ」のように発音を直すのは難しいことがわかった。	13. 文構造が理解でき、新語も学べた。
3. 日本語聴解技能が向上した。	7. 本当の日本語の文が出てくると良い。	14. 語相互の結びつきが聞き取りにくく「た/だ」「か/が」の区別が難しい。
4. 教科書で習ったよりも、多くの文は短いことがわかった。また、研究室の同僚が話すときに、以前より話ことばの日本語がわかるようになった。	8. 聞き取り練習は大変だがおもしろい。	15. 1日5文にしたらよいだろう。
5. 非常に多くの単語を学ぶ良い方法だ。	9. “ou” と “oo” の区別は難しい。	16. 実際の日本語の文が学べる。
	10. 日常使われる文がたくさん学べる。	17. これは聞き取りよりもむしろ文の意味に集中すべき練習だ。
	11. 「た」と「だ」の区別が難しいが、難しさはちょうどいい。	
	12. 簡単だが、「つ」の正解は“tsu” だ	

Cohen, Andrew D (1980) *Testing Language Ability in the Classroom*: ERIC.

Frauenfelder, Uli H. and Lorraine Komisarjevsky Tyler (1987) “The process of spoken word recognition: An introduction”, *Cognition*, Vol. 25, No. 1-2, pp. 1-20.

Gagné, E.D., C.W. Yekovich, and F.R. Yekovich (1993) *The Cognitive Psychology of School Learning*: Harper Collins College Publishers.

飯野厚 (2013) 「英語教育におけるリスニング、シャドーイング、ディクテーションの関係」, 『法政大学多摩論集』, 第 29 巻, 67-81, mar.

Krashen, Stephen D. and Tracy D. Terrell (1983) *The Natural Approach: Language Acquisition in the Classroom*, Hayward, California: Alemany Press.

Leow, Ronald (2003) “Simplification and Second Lan-

guage Acquisition”, *World Englishes*, Vol. 16, pp. 291-296, 01.

Nishimura, Takeshi (2010) “Hanashi kotoba no seibutugakuteki kiban (The biological basis of spoken language)”, in Hisakazu Hasegawa ed. *Gengo to seibutugaku (Language and biology)*, Tokyo, Japan: Asakura shoten, Chap. 4, pp. 70-96.

Oller, John and Virginia Streiff (1975) “Dictation: A Test of Grammar-Based Expectancies”, *English Language Teaching*, Vol. 30, pp. 25-35, 10.

Oller, John (1971) “Dictation as a device for testing foreign language proficiency”, *ELT Journal*, Vol. 25, pp. 254-259, June.

Savignon, Sandra J. (1982) “Dictation as a measure of communicative competence in French as a

表 8: ディクテーション練習実施後の学生の意見「ディクテーションによって知識は増えたか」

1. 後で単語を調べて単語力がついた。	とができる。	11. 語彙もよく使う表現も増えた。
2. どのくらい覚えているかコース終了後自分でもう一度テストする。	8. 聞き取りはすこし上達した。混乱していた音がわかった。カジュアルな言い方がわかった。もちろん、新しい単語も覚えた。よい聞き取りの学び方。単語量は増えた。	12. 基礎的な単語や文構造を知ってしまったら、この練習は役立つ。
3. 日本語の単語を広げることができ、日常の会話練習のおかげで実際に日常で使えるようになった。	9. 聞き取り練習は新しい単語を学ぶことで日本語の知識が広がった。モデル文が日常会話に使えた。	13. 新しい語を学んだ。
4. 練習しているうちに知識は増えた。	10. 日本語の単語と発音に慣れてきた。	14. 教室で習った「私」「いくら」のような簡単な単語が違った音だったので、さらに理解するのに難しかった。
5. 徐々に単語や文がわかってきた。		15. 知らない単語がまだ含まれていたため、聴解力向上に役立つ。
6. 練習した文に慣れ、学んだ。		
7. できるだけ長い時間言語に触れるこ		

表 9: ディクテーション練習実施後の学生の意見「その他コメント」

1. ディクテーションは自習でやるべきで、先生から学ぶものではない。	5. 楽しい。ローマ字で書くのでどこでもできるし、ラップトップでも。	役立つと思う。
2. これで自信をよりつけた。	6. おもしろいディクテーションで今までこんな経験したことがない。	8. 文法説明も付いているとよりよい。
3. 新しいことばを学ぶのに最適。	7. 単語間のポーズがあれば単語の意味を理解し、新しい語彙を覚えるのに	9. どの単語も正しく綴るのは難しい。
4. 毎日の聞き取りで、新しい語を学ぶ習慣をつけることができた。		10. 文が速く、音節を認識するには繰り返し聞く必要あり。

second language¹”, *Language Learning*, Vol. 32, No. 1, pp. 33–47.

杉浦正利・竹内彰子・馬場今日子 (2002) 「リスニング能力養成のための自律学習：ディクテーションの効果」, 『言語文化論集』, 第 23 卷, 第 2 号, 105–121, mar.

Zhao, Yong (1997) “The effects of listeners’ control of speech rate on second language comprehension”, *Applied Linguistics*, Vol. 18, pp. 49–68.